

## 家族の団らん

宇部地区合同同窓会 里 辰徳（機械H18年卒）

平成18年3月に山口大学工学部を卒業し、社会人人生も13年の月日が流れました。その間に平成の世も終わり、令和元年となりましたが、世間は終身雇用崩壊、朝鮮半島問題、AI技術の発達、異常気象等の日本社会及び環境の変化は目まぐるしいものだったと感じています。これから先、こういった変化の波は更に大きくなっていくと予想され、のほほんと生きていくのは無理だろうと考えると、ほんとうに気が滅入るようです。

そんな難しいことばかり考えていたら生きちゃいけないよ、ということで、皆さんも各々のストレス発散方法があると思います。私の場合、一番のストレス発散方法と言えば、ありきたりですが「家族の団らん」と感じます。私には妻ともうすぐ4歳になる息子がいます。仕事で疲れた日常を最も癒してくれるのは、やはり純粹無垢な笑顔をふりまく息子の存在です。拙いおしゃべりですが毎日のように成長を感じさせてくれ、一緒に遊んでその笑顔を見ると、明日も頑張ろうと思えます。息子が寝ると、妻にマッサージをさせます。マッサージといっても、妻はソファに座ってテレビを見ながら、足でひたすら私を踏み続けます。もちろんヒールは履いていませんが、私は「いいよ、もっとそこ踏んで！」と言いながら、寝落ちすることもしばしば。たまに私も妻をマッサージしますが、その時はしっかり手でもみほぐしてあげます。

休日は、子ども中心で出かけることが多いのですが、我が家のとなりに妻の実家があるので、妻のご両親とよく一緒に出かけます。そして、妻とは月に一度、子どもを妻の実家



寂地峡にて

に預けて記念日デートを行っています。結婚して5年が経ちますが、今まで欠かしたことはなく、その甲斐があつてか、今でも一般的によく聞く夫婦よりは仲のよい関係を築けていると自負しております。

この夏、妻とデートで山口県岩国市にある寂地峡へ出かけました。名所である五竜の滝を見るため、十分に舗装されているとはいえない山道を散策したり、途中にある滝つぼに2人で飛び込んだりと、幼い息子を連れてはできないような、大人の体の動かし方を久しぶりにしたように思いました。

最後になりましたが、私は化学品製造を主とするセントラル硝子(株)に勤めております。山口大学の先輩方も多数在職しており、助力を得やすい環境です。最近、プラント保全から建設へ異動となりました。心機一転というわけではありませんが、学び直しの機会に恵まれ、新鮮な空気を吸いながら日々精進しております。

これを読んでくださっている常盤工業会の皆様も、仕事と家庭を両立し、充実した日常を過ごされますようお祈り申し上げます。